**３、競技部役員共通理解事項**

（１）全般にかかわる共通事項

1）服装について

　　　ア、帽子、ベスト、ＩＤを常に着用する。暑さも予想されるが、ベストのチャックはきちん

　　　と締め、襟元を正す。

　　　イ、休憩時には、帽子、ベスト、ＩＤを着用しない。

2）あいさつについて

　ア、遠方より選手の応援、観戦のために多くの人々が来場する。「おはようございます」「こ

　　んにちは」等のあいさつは、①こちらから先に　②明るく元気良く　③目を見て　の３原

　　則で。基本的に脱帽は必要ない。

　　　イ、親しき仲にも・・・、役員同士もあいさつを。

3）問い合わせ、クレームについて

　ア、こうしたイベントでは「どこで、どこに、何時から」の質問が多い。基本事項について

　　は、しっかり覚えておく。

　イ、分からないことやはっきりしないことについては、「ちょっとここで待っていいていただ

　　けますか」「今確認してきますので、お時間をください」と言う。

　ウ、クレームには、原則的には一人で対応しない。必ず本部に報告し、本部で対応する。中

　　には、クレームを言うだけで満足する人もいる。そういう場合は、「なるほど、そうですね」

　　などと相槌を打ちながら聴き「ありがとうございました。気がつかなくて申し訳ありませ

　　ん。上司にも必ず報告しますので。」などと言う。

4）その他

　ア、ルール違反を見つけたら

　　・明るい笑顔で。「申し訳ありません。ここは飲食禁止になっていますので、別の場所に移

　　動していただけると助かります」「申し訳ありません。全館禁煙となっておりますので」と

　　丁寧に応対する。感情的に言うと感情的に返ってくる。

　　・小さな子ども達が、走り回る、危険なことをするなどの場面に遭遇したら、優しく「こ

　　こでは走ってはいけません」「危険です、すぐにやめなさい」と端的に伝える。保護者が

　　近くにいる時は、「申し訳ありません。よろしくお願いいたします」と丁重にお願いする。

　イ、持ち物の管理

　　・各自で責任を持つ。

5）　捨得物・迷子等について

落し物を見つけたり、迷子がいた場合は総合案内所へ届け出て引き継ぐ。但し、捨得物等が明らかに選手等に関すると思われる場合はリード・ボルダリング競技進行ナレーターにアナウンス依頼する。

6）　救護について

ア、救護所比較表

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 救護所の別 | 救護席・救護所（リード） | 救護席・救護所（ボルダ） |
| 設置場所 | リード競技エリア内 | ボルダ競技エリア内 |
| 救護所の数 | 救護席、救護所各1か所 | 救護席、救護所各1か所 |
| 応急処置対象者（原則） | 選手・監督等（リード競技エリア）・競技会場来場者 | 選手・監督等（ボルダ競技エリア）・競技会場来場者 |
| 配置医師・役員等所属 | 実行委員会 | 実行委員会 |

イ、救護所別の業務範囲

a. 救護席（リード・ボルダリング競技エリア）

リード・ボルダリングの各競技エリア内に常駐し、主に競技中に傷病等のあった選　手・監督・トレーナ（以下選手等傷病者）に応急処置を行う。判断により、救護所への送致・医療施設への救急搬送等を行う。

b. 救護所（リード会場・ボルダリング会場）

医師はボルダリング救護所に常駐し、救護席を統括する。必要に応じリード競技会場に赴く。競技会場内全体の傷病者に応急処置等を行う。

ウ、全競技役員・補助員等としての傷病者への対応

a. 競技会場のどこに救護本部・救護席・警備消防本部があるのか等、事前に知っておく。

b. 傷病人の第一発見者になったり、傷病人の発生情報が寄せられたら、速やかに最寄りの救護所に報告すること。

c. 自分の体調が悪くなった、または悪くなりそうな場合には、無理をせず速やかに所属長に申し出ること。

d. 傷病者の対応に不安を感じたら無理せず、他役員の応援を求め迅速に対応する。

e. 傷病者に対応する際は、日時、場所、状況など客観的情報を把握するよう努める。

エ、その他

ア. 傷病者等に対する判断は決してしてはいけない。救護所（医師）の判断に委ねること。

イ. 医薬品類や氷等、傷病者等に求められても容易に提供せず、救護所（医師）の判断に委ねること。　例：競技終了後の選手からクーリングダウンのために氷が欲しいと頼まれた→　×

ウ. 熱中症予防のためにも、水分・ミネラル補給に、ドリンクサービスコーナーの活用を、競技会場内のみなさんに勧めてください（無料サービス）

エ、選手等傷病者対応の流れは次項「傷病者対応フロー図」参照。